



徳和文庫とい替川他石箱の文庫之  
本書も同上巻一冊のみ取らる亦り  
しか後元本と入手古書肆へ拂下  
けられしものなり  
本書下各文行  
きに於て亦之  
中村 生

徳和文庫

松平定藏

松平文庫



お人ふ雄やあやせをうのいあふ蕉翁の  
遺蹟を讀し何ぞも忠懐の遺蹟なり一紙  
書にちを申懐に因り小州を記し其も  
其林名風物と目とを記し其も  
漆を案ふ小なるも其も其も其も其も

書其書乃其稿を完功するは流邦の友の  
風流繁栄統一の中目眩あり光を掩て  
三時をたふ冬あつとまゝやに枝のふを隠  
可小破一粉室あり回小姑一第伏燦燦をまを  
らるゝ有子己父の流子中共に曰く梓中  
形一と遠也乃流友小こんこもしを身ふ河  
そあるに博名こびし況や回を第こよふら

ふくかん一と乃流友おなりきいとと  
こんこんあまやと急小と志ら様へら物以  
まゝ高養小居とゆと梓小ありと屋中余ら  
回と一ふ可なりと他と族とこもしと補  
流子と一と抱去之申博人のらとてハと小  
名一法と梓速と米の志林稿と名せり  
撰をゆとさふ余らと書形中序とし又流



梅

朝日小春の梅の白知の軒

朝日小春の梅の白知の軒  
D.M.M. 1870



朝日小春の梅の白知の軒  
梅の白知の軒

朝日小春の梅の白知の軒

梅

朝日小春の梅の白知の軒



朝日

江戸

梅園のつく本らるるも冬雪おと川

杉下より舟籠をせむと云梅うり

高島がもつ山一山つもく大古きぬ

ちりしり川を舟梅おあつれきり

此の歌の画に歌ふ

程美りて梅を以てかきかひりかき

のりりわらわら花のまきりてかきか

のりりわらわら花のまきりてかきか

くたつた下りてかきかきかきかきか

百舟

大来

高島

川舟

栄路

達意

玉崎

雪浪

江戸

梅うらわを深しめりてかきかき

七尺きりてかきかきかきかきか

柳

お像ふかきかきかきかきかきか

けしめをいじりてかきかきかきか

人のつらきかきかきかきかきか

井の舟より柳をいじりてかきかき

けしめをいじりてかきかきかきか

江戸

也夢

麻之

鏡之

井志

鳥向

伊勢 山曉  
逢戸  
馬場原の舟尾もまた  
水先の柳をそよぶみちの舟  
くさね

一ノ東  
扇市  
かき

くさね

松山 柳酔

長年  
雪舟  
去舟  
鳥東  
大梁  
石原の舟もまた  
舟をそよぶみちの舟  
かき

くさね

舟をそよぶみちの舟  
石原の舟もまた

山暉  
信上田  
鳥奴

くまのきん

鳥阿  
甲州夫佐

氏初源純

百舟  
江戸

まきのる

三

信上田  
南柳  
古條  
お申吉原  
喜系  
舟白  
鶴舟  
江戸  
二溪  
如行舟  
春衣  
氏初  
碩茂  
扇町屋  
具山  
信上田  
始毛

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声の響く山道  
鳥の鳴く声の響く山道

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声

鳥の鳴く声



二〇三

木の葉の如く可憐なる花の如く  
あつらふに甘くもほろりたる  
おくよめの身やれは姉松老の如

御歌

まほしき梅の如くも花の如く  
あつらふに甘くもほろりたる

五

縁えん忌

伊の海舟の如くも花の如く  
あつらふに甘くもほろりたる

蝶よよ蝶

蝶よよ蝶よよ蝶よよ蝶よよ  
あつらふに甘くもほろりたる

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

お中納言

上平三河川  
之森うつゝ松花流しつゝ不障子之節  
んらの葉子に白ゆねらとまきこつ節  
比彦はよかこつて葉をわげの葉  
葉路

かろ川 田原

五中三河川  
五玉五  
松をよかゆ流らふと葉をゆつ葉  
その中お田原の家の價もあふ  
如毛

まじりたる節の節

お中三河川  
二角  
ふうは角葉一葉をうゝとまき  
かま葉の葉に角をよかゆつ節  
斜射

やまの葉

お中三河川  
お中三河川  
やまの葉をよかゆつ節  
お中三河川  
お中三河川

お中三河川

お中三河川  
お中三河川  
お中三河川  
お中三河川

花はくちしつゝのうらみ

上毛外傳

巻二

くさき

くさきやうのうらみ

江戸

和

くさきのうらみ

お中

水

くさきのうらみ

お中

水

くさきのうらみ

お中

水

くさきのうらみ

お中

水

くさきのうらみ

お中

水

枕

くさきのうらみ

お中

水

くさきのうらみ

お中

水

くさきのうらみ

お中

水

くさきのうらみ

お中

水

くさきのうらみ

お中

水

夕子

杉のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
五平白 一酒居  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
下野川 素川  
 續ら山夕子の穢の夕の那  
三つ  
 去り夕の那夕の那夕の那  
佐倉 赤松  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
信くさく  
 くさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
上毛牧 看志  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那

のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
まては〜業〜  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
まては〜業〜

花

東叡山の上の  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
花は〜  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
巨計  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
此君  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
方齋  
 のくさくさ夕子の夕の田へ夕の那  
如貝



よるのあふ二月のふゆの事園芳

何巻

景南

たのしみあふるさ

五中返

春陽

折るのたのしみあふるさ

何巻

正林

張りたるたのしみあふるさ

鳥秋

歌のふりかへ

何巻

雙生

あふるさたのしみあふるさ

何巻

眉尺

あふるさたのしみあふるさ

何巻

如天

あふるさたのしみあふるさ

何巻

百五

あふるさたのしみあふるさ

何巻

雪川

あふるさたのしみあふるさ

何巻

若縁

あふるさたのしみあふるさ

何巻

河雪

あふるさたのしみあふるさ

何巻

東阿

あふるさたのしみあふるさ

何巻

梅葉

あふるさたのしみあふるさ

人跡く少なき山にありては  
 中ノ峰をみれば  
 山頂の雲は  
 中ノ峰をみれば  
 山頂の雲は  
 中ノ峰をみれば  
 山頂の雲は

山頂の雲は

山頂の雲は  
 中ノ峰をみれば  
 山頂の雲は  
 中ノ峰をみれば

山頂の雲は  
 中ノ峰をみれば  
 山頂の雲は  
 中ノ峰をみれば

松平の御書

いせ松平

子母

松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書

松平の御書

松平の御書

松平の御書

松平の御書

松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書

松平の御書

松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書

信濃田

子母

松平の御書

いせ

大野

松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書

松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書

松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書  
松平の御書



東春の雪の川に流るる中を在る

子安の舟

下程の舟

霞の舟の舟の舟の舟の舟の舟

梅段

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

石段

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟

舟の舟

舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟

舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟

舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟

舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟

舟の舟

皇角子の心業多の如く故の如  
那何の如く心業多の如く春葉  
相行の如く心業多の如く那  
那何の如く心業多の如く春葉  
皇角子の心業多の如く故の如

心業多の如く

皇角子の心業多の如く故の如  
那何の如く心業多の如く春葉  
相行の如く心業多の如く那  
那何の如く心業多の如く春葉  
皇角子の心業多の如く故の如

ゆわはくお嬢ふくおふかおはく  
措窈見くおはくおはくおはく  
紅くおはくおはくおはくおはく  
皇角子の心業多の如く故の如

心業多の如く

ゆわはくお嬢ふくおふかおはく  
措窈見くおはくおはくおはく  
紅くおはくおはくおはくおはく  
皇角子の心業多の如く故の如

上皇御田  
近市  
皇  
かたさ大上  
皇

確佛

河の如き子に戸の如き山に戸 山曉  
花は春の如きに戸の如きに戸 如書  
仏を世にに戸の如きに戸 如光

子一の如

子一の如に戸の如に戸の如に戸 如  
此の如に戸の如に戸の如に戸

月鏡に戸の如に戸の如に戸 眉尺

如梅

如梅に戸の如に戸の如に戸 如石  
如梅に戸の如に戸の如に戸 如柳

陽牛

陽牛に戸の如に戸の如に戸 古傑  
陽牛に戸の如に戸の如に戸 陽牛

新に集らば足るの事  
古由

はらわら

ふれあひの字にわらふ林う那  
翠平

はれあひの字にわらふ

紗あひの字にわらふもはらわらふ  
蓬吉

くもあひの字にわらふもはらわらふ  
あひ

ふれあひの字にわらふもはらわらふ  
接谷

ふれあひの字にわらふもはらわらふ  
蓬吉

はらわら

かんこひの字にわらふもはらわらふ  
古由

あひあひの字にわらふもはらわらふ  
百吉

くもあひの字にわらふもはらわらふ  
あひ

ふれあひの字にわらふもはらわらふ  
羽吉

茶を戸を志しくむのしむ申の事

休醉

既家徳好性を傳又可也

三葉の可也

りし高ふ流りあふ鳴のこも業化

双舟

かたの糖を唇ひらけ流しに糖より

眠光

酒は伊勢道へ海下の糖純を

眠醉

と糖をく松を風を川糖川を

眠醉

茶の葉の中をあらわすはらうと

正徳と云ふもより田の茶を

~~~~~

三川

わうし田より糖をくもあふ糖を

紙

くし茶のくふく糖の(田)を糖を

左光

糖人〜〜〜〜〜の糖を

~~~~~

大樹公は糖〜〜〜糖を

~~~~~

糖一羽は糖の事と云ふ糖を

糖

~~~~~

京尺ふく川の流れを糖を

巨計

川うり糖の糖を流る糖乃屑

積向

なほなほ

あはれなほの涙らふはらふ

伸仙

あはれなほの涙らふはらふ

有常

あはれなほの涙らふはらふ

一羽

あはれなほの涙らふはらふ

如常

あはれなほの涙らふはらふ

同

あはれなほの涙らふはらふ

春川

あはれなほの涙らふはらふ

春月

くこころのうらみもなほうらみも  
あはれなほの涙らふはらふ  
あはれなほの涙らふはらふ

上毛上野井

西島

公井

一島

お中へ向ふ

お中

あはれなほ

あはれなほの涙らふはらふ

お中

あはれなほの涙らふはらふ

お中

あはれなほの涙らふはらふ

お中

あはれなほの涙らふはらふ

お中

白井

庭にやけのほろりてん 杖のふて 後から  
夫らうりてんありのむね 瘡のふら 二四 瓶  
西のふりてんありのむね 瘡のふら 巻  
巻

田極

くちのむねも極を田来る いと極 經  
おくと邪を田極の中春のうき 二 小

おと

まぐれを極をうきてんありのふ 上も極 赤  
まぐれをうきてんありのふ 二 小  
まぐれをうきてんありのふ 三 小

おと

まぐれをうきてんありのふ 四 小  
まぐれをうきてんありのふ 五 小  
まぐれをうきてんありのふ 六 小  
まぐれをうきてんありのふ 七 小  
まぐれをうきてんありのふ 八 小

すゝめ

持の史の易しきうう(子)象の分 大来

中御まわす時

御那のまゝなる者なりを以て源の所 巨計

祀らざるは其の所らしくも源一 出成

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 一箇居

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 女川城 奇心

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 采空

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 暁子

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 羽秋

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 一瞬

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 茶塔

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 源三

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり)

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 采空

源一(山)を(川)に(入)る(は)源(の)所(なり) 采空



照射

とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ

とまのうはなはるゝ

とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ

とまのうはなはるゝ

とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ

とまのうはなはるゝ

とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ  
とまのうはなはるゝとまのうはなはるゝ

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes. Includes characters like 井 (well) and 帶 (belt).

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, including characters like 人 (person) and 文 (text).

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, including characters like 子 (child) and 水 (water).

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, including characters like 水 (water) and 子 (child).

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, including characters like 秋 (autumn) and 春 (spring).

Handwritten characters, possibly a name or title.

十景不傳之妙  
松戸  
信長  
此  
左  
右

みづ

舟羽子の松戸  
松戸  
信長  
此  
左  
右

三

松戸

松戸の松戸  
松戸  
信長  
此  
左  
右

山々

ふゆにふゆに可憐の跡をたづね

蓬草

ふゆに

かきくれきり先よる海を松野山

いせ松原  
羽卒溪

霧のほもゆくの跡をたづね

山由  
子均

松よかきくれきり先よる海を松野山

山由  
二曲

ゆふのふゆに母は子に海の小川

いせ  
彦彦

七夕のふゆに及非も海を松野山

上高井  
彦彦

其四

松よかきくれきり先よる海を松野山

いせ  
彦彦

ゆふのふゆに母は子に海の小川

いせ  
彦彦

細流よりの松の

ゆふのふゆに母は子に海の小川

いせ  
彦彦

ふゆに

松よかきくれきり先よる海を松野山

いせ  
彦彦

霧のほもゆくの跡をたづね

いせ  
彦彦

松よかきくれきり先よる海を松野山

いせ  
彦彦

生葉乃新葉のひと秋も漲るくま世は  
かたきるくも那の先入りき世の  
いせげ 秋之  
休父

秋の神

石まき巻の秋のささるのかつらひ  
山田 同

うささかお石のふさふさゆきあか  
いそふ 杜計

あやみき男林のけしき入りり  
いそふ 一 望

まろくもしてはく秋の毛ねるらあ  
いそふ 酒名

秋のふし秋のふ家のまのりり  
いそふ 祭場

いそふ

月原一やふ乃葉のひらふり  
松代 流習

秋のやのき北線瓜子炭んま  
没水

あさ秋の骨のくねるまき  
白戸 葉心

秋の條をりんあやふさ  
白戸 秋の

秋の何やま秋のけりり子ね  
上を 眠醉

くらくくもあやふさ秋のさ  
上を 羽益

こねま秋のねもも冷ハ秋  
上を 冬

あやま秋も秋のけりり  
上を 有和

秋の秋あやふさ人きあふ  
上を 有柳



たきやゆ沸やを花よりよりのほろ  
多きく大くも葉の多きものかひし  
那きく信ふきハ花よりよりの那  
葉のよやぬう海方よりよりの夜  
蔓竹の根よきよの葉方よりよりの南  
流りよの葉方よりよりの那

柳の葉方よりよりの柳

柳の葉方よりよりの柳

井ノ

柳

那

巴丹

以南

麦

上毛

日

以上

林

たきやゆ沸やを花よりよりのほろ  
多きく大くも葉の多きものかひし  
那きく信ふきハ花よりよりの那  
葉のよやぬう海方よりよりの夜  
蔓竹の根よきよの葉方よりよりの南  
流りよの葉方よりよりの那

柳の葉方よりよりの柳

たきやゆ沸やを花よりよりのほろ  
多きく大くも葉の多きものかひし  
那きく信ふきハ花よりよりの那  
葉のよやぬう海方よりよりの夜  
蔓竹の根よきよの葉方よりよりの南  
流りよの葉方よりよりの那

左文

系

くま

左

系

冬

森戸

吹

洗

下

仙

武

一歌

ふ家お自ら権系の一那の程 江戸 普成

逢ふ家の子ほらふ焚火系那 上方 方齋

下家や夜ふくふ神むを我 上毛 珠節

高の道ふあふんぬぬのあ 三川 之進

柴の道ふ築かへのらり汁 川崎 星屋

叢ふのせのひまふむあきのあ 上毛 志

かへふ川ふ家のあふあふのあ 上毛 枕

ふ家ふあふんらけあふ那馬川 信州 有常

注ふり かなん

ふの家々 確ふ程のこらふふ 上毛 春崎

親けふはたふあ子の母をかく 上毛 遠所

舟屋下 確は家々のひまふ 上毛 比呂

たふあふのふたけあ角力 上毛 知啄

稿書





帽尔少野登山をくまの那子  
いふは牛尔おふを社を修一  
下徳徳  
大座  
眠石

隠るる中

口出

いふ一那信中をくまの那子の庵  
後の中海尔了る進くまの那子

中の上音尔有るの那子文中心  
中一那信をくまの那子

中一那信をくまの那子

中一那信をくまの那子

中一那信をくまの那子

中一那信をくまの那子

表出の那信をくまの那子  
中一那信をくまの那子  
中一那信をくまの那子  
中一那信をくまの那子

隠るる中

いふ一那信中をくまの那子の庵  
後の中海尔了る進くまの那子

中の上音尔有るの那子文中心  
中一那信をくまの那子

中一那信をくまの那子

中一那信をくまの那子

中一那信をくまの那子

中一那信をくまの那子

徳輝亭也る事の秋宮まの  
 上毛吉川  
 徳輝亭  
 上毛吉川  
 一  
 二  
 二程

名の品のり

八朝の神也る事まの秋宮まの  
 上毛吉川  
 二  
 豊山の事也る事まの秋宮まの  
 上毛吉川  
 三

徳輝亭の事也る事まの秋宮まの  
 上毛吉川

八朝也る事の秋宮まの  
 上毛吉川  
 二

名

八朝也る事の秋宮まの  
 上毛吉川  
 二

名

八朝也る事の秋宮まの  
 上毛吉川  
 二

上毛吉川  
 二  
 三

月夜の思ひを記す

紀和らふ

五月

月

月夜を記す一二夜やしらぬやのよ  
小つもよみ院の夜をよむ月を  
月をよみ口をよみぬま石川や

江戸

大来  
着之  
江左

方齋

狭山上の月

二の日の月を天野の月と云ふ

二二

月夜を記す夫をよむ月乃  
懐かき月をよみ人よみぬま  
月夜を記す夫をよむ月乃

月夜を記す

月夜を記す夫をよむ月乃  
懐かき月をよみ人よみぬま  
月夜を記す夫をよむ月乃  
懐かき月をよみ人よみぬま  
月夜を記す夫をよむ月乃  
懐かき月をよみ人よみぬま

一象  
張国  
左繁  
左咲  
忌南  
也彦  
阿  
吉平

川徒やふあゆま先を舟の友  
京橋 上毛上本井  
名をせぬかたの川流く人衆を舟  
上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井

楊柳臨迎もさか

縦は老るる川流し乃現る那  
上毛上本井 巨計  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井  
舟のふかた名有り流あゆまん外  
川 上毛上本井

上毛上本井  
河内  
上毛上本井  
河内

了んおちま  
ら加ら田 耕

俗歌にや鶴の雛を言を射を  
の角らとる言の角ら子二毒雛  
詠はれと秋のまふ川ぬる角  
ふのまけはる月かしの字  
ふぬと雛よのまふとて不神

島南

注中村

古懐

詠一

上毛赤川

菊英

倉尾

秋 暮る

鴨多川舟うりし渡り 江の岸有るり  
離多川舟乗入るくは子娘の象  
むくまの柱をこころを指の那  
雛鶴の羽中をふらぬくまふ角  
本河邊の舟中子乗もさか  
ふくや鶴鶴の舟を計りははんく  
了んおちまは世に如 鴨の舟ら  
鴨を計りははんくはからさるの舟  
舟は百舌鳥の舟を計りははんくも

上毛赤川

鴨野

西郊

深紫

柳糸

畠園

島坡

島屋

風車

蓬戸

流るる水

高し子らへ射穿たるをみよか  
しりや世に流るる水のほろや  
心子も月も水も流るるの流るる  
流るる水も流るる水の流るる  
流るる水も流るる水の流るる

江戸

子燈

組山

山暁

流るる水

流るる

流るる

流るる

福

二十九

子燈乃水や流るるをみよか  
しりや世に流るる水のほろや  
心子も月も水も流るるの流るる  
流るる水も流るる水の流るる  
流るる水も流るる水の流るる

一氣

江戸

流るる

流るる

流るる

流るる

流るる

流るる

木樨

かりの流るる木樨

樺木

木樨や花をくさるるを死に舞

おねおね  
松蔭

揚衣

位下けり子とあにけし此の位下  
やうらき秋の限はと

心も秋を詠ひて那を遠きあて

信戸倉  
麦浪

有る舞を詠ふはと秋をくさる

信戸倉  
おねおね

くにははらの登壇あてと衣くさ

おねおね  
操統

まのこ

秋の哀と春のさけけは秋のさく  
日下と春のさくさく

おねおね  
雲路

秋を詠ふ

甲の舞は秋の限をさくさく  
秋の舞は秋の限をさくさく  
秋の舞は秋の限をさくさく  
秋の舞は秋の限をさくさく  
秋の舞は秋の限をさくさく

おねおね  
右統  
甲申栗  
おねおね  
おねおね  
大来



雁

小田乃存山家女よりも旅中へ

小調

雁をよみてん芦花亭飛を海辺に那

帯川

くもくも白浪の意を存君かく

芦花

小田乃存山家雁のいくつかの那

中流

戸平一と雁のうらや儲不る那

上もよみ井

三津雁をけら海のうらやん不

斗次上

あら海女をよみよもつる乃連

信三田

三十七

存りて海女をよみよもつる乃

ねり

空ふく存りて海女をよみよもつる

口女

空ふく存りて海女をよみよもつる

お中戸塚

小田乃存山家雁のいくつかの那

新父

雁

そまにけふ初と徳のうらや家へ

甲州善地

羽ふけ多るよもつる乃存山家雁の

文至

御系乃松の鈴りやけをよみよもつる

いさら北条

南氏

はつとんふらたのふたふた  
けふもあつたのふたふた  
大柴

任松代

定中

木石巻

板舟のふたふた  
山川や板舟のふたふた  
流栗や心ふたふた  
南柳

夜舟

吹暮

南柳

麻

三八

くはくはつたえはつた  
望らつたつたえはつた  
巳後

上毛屋田

巳後

赤中巻

揚屋のふたふた  
了ふたや起ふた  
望のふたふた  
川流のふたふた  
麻呼つたつた

吉川

蓬志

ふ井

一羽

上井

圭之

下張をふた

芝水

徳丹

空山

桑も花一葉の影を久かき那  
ひの中へくくも無はも兼、此れゆく  
信上四 雲帯 葉燈

山家も花やうて

秋の空にや雲も花を似きいふお又  
戸倉 妻二

松のゆきを花をのふきハ麻那らん  
松代 松吹

春の空にや雲も花の影のちも乃  
眠和

多えくは時無何や、花やふむ  
可候

守はまもいつふ山家やうの那  
序芦 習谷

信上九

手九

麻字了那、免ら建たり花はゆ  
尾全  
福はゆふや、時をくふ花は  
方齊  
いもま井をまふ麻の時こい  
如貝

三本

ふを花と先は花のふひこ  
巨計  
かこを花のつふはもり花をさけ  
大巻  
海はゆふ花を花をさけの南  
兔庵  
ふもらふん、花を花のつふは  
近市



山崎

二乃一ノ木が花を咲かすに松を好む  
 のささげの葉も花も西尾の  
 由緒もよく松の葉に  
 松の葉も花も  
 松の葉も花も  
 松の葉も花も  
 松の葉も花も  
 松の葉も花も

四十一

松の紅葉も花も  
 松の紅葉も花も  
 松の紅葉も花も  
 松の紅葉も花も

山崎

松の紅葉も花も  
 松の紅葉も花も  
 松の紅葉も花も  
 松の紅葉も花も

秋のうた

まき野のふもとの松林の秋のうた

上毛田

鳥森

ふもとに秋のうたをいふ

上毛田

松谷

ふもとに秋のうたをいふ

上毛田

大馬

秋のうたをいふ

上毛田

西休

秋のうたをいふ

上毛田

左馬

秋のうたをいふ

上毛田

右馬

秋のうたをいふ

上毛田

左馬

秋のうたをいふ

上毛田

右馬

秋のうたをいふ

上毛田

左馬

秋のうたをいふ

上毛田

右馬

秋のうたをいふ

上毛田

左馬

秋のうたをいふ

上毛田

右馬

秋のうたをいふ

上毛田

左馬

ふりしん

風ふあき時しんあ秋乃たあらま

柳宗

月陰しああましあく秋あ春

古傳

あくああああ指のあああ

西山

しんああああああああああ

蒼島

あああああああああああ

花由

あ秋子ああああああああ

金山

